

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202882		
法人名	有限会社 グリーンケア・はりお		
事業所名	グループホームかえで荘 1号館		
所在地	長崎県佐世保市針尾東町977-5		
自己評価作成日	令和2年12月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は自然がいっぱいであり、外庭等の散歩を行えるようになっている。
職員駐車場から先のスペースには、みかん畑もあり、収穫時には採って、入居者様と共に行っている。
施設内は、広々とした空間で生活をしていただけるようになっており、木材等にもこだわっている。
そのため、生活を共にしていただく施設ではあるが、家で過ごしていただいているような環境作りに努めている。
入居者様を家族として迎え、毎日、少しでも一人ひとりの入居者様とゆっくり関わっていただけるような時間が流れています。
一人ひとりのペースを大事にし、その人らしさを大切にしよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は四季折々の自然に恵まれた環境の中に建ち、かえで荘の名前の由来でもある楓の木が庭に並び、様々な花と玄関の垂れ梅で季節を感じることができる。平屋作りの事業所は、ユニット間の仕切りを無くし、広い共用空間となり行事など合同で使用出来る。管理者と職員は、利用者に寄り添った心安らぐ介護支援に取り組み、振り返り検討しながら、更なる質の向上を目指しており理念の具現化が見てとれる。特に介護計画は利用者の思いを大切に内容を反映しており、骨折後に自立歩行を切望する利用者に対し検討を重ね、居室での歩行に繋がった事例がある。職員のチームワークの良さも事業所の強みであり、前年度から海外技能実習生が試験に合格し職員として勤務する等、代表の思いが漸進的である。更なる支援の質の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝復唱し、それぞれの理念について意識づけを行なうようにしている。自分自身の振り返りも兼ねている。	理念は見やすい場所に掲示し、朝礼で復唱を行い、明るく豊かな環境の中、心安らぐホームづくりと質の高い介護サービスの提供を全職員が意識し実践に繋げている。職員は利用者の思いやペースに出来るだけ沿えるよう支援時には必ず声掛けし、安寧に過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年のように地域の方との交流は行なえていないが、道端で会う方々には挨拶をしている。今年2月に技能実習生を迎え入れ、地域の方に紹介し、迎え入れてもらい、コロナが流行する前には町内の行事にも参加を行なっていた。	町内会に加入し、町内清掃に職員が参加している。小学校の子供110番の登録もある。新型コロナ以前は、地域の行事や公民館でのサロン参加の他、事業所の行事へのボランティア受入れ等、交流を図っている。海外から技能実習生を受け入れており、今年度も更に増員の予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にあるコンビニ等入居者様と出かけ、顔なじみを作ることができた。また、地域の方から見かけない高齢者が歩かれていると、施設へ電話をくださることもあるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は書面による対応を行っている。意見として直接、文書であがってくることはないが、開催しているときには意見等をたくさんいただくことができています。	年6回、規定の参加者で開催し、意見交換等行なわれサービス向上に努めていたが、新型コロナ禍で現在は書面会議である。事業所の行事および今後の予定報告、入居者状況など詳細な議事録がある。参加者に議事録と報告確認の返信封筒を郵送し、情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括等、連絡を取り合いながら空き状況であったり等のやりとりは行っている。また、他事業所ともケア等に対する取り組みについての意見交換を行い、お互いの対策等について情報共有を行うようにしている。	事業所は、近くの支所で介護保険の更新認定などの手続きを行っている。福祉課職員や包括支援センターとも連絡を図り、協力関係を築くように取り組んでいる。市主催の研修会は、職員の希望に合わせて参加している。今年当初は研修の中止が多かったが現在オンラインを活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状の身体拘束実施について話し合い、しない方向に持っていくためには？との部分で理解し合うようにしている。玄関施錠に関しては、大事故につながるため仕方ない部分であると思っている。それ以外にも、夜間の人感センサー使用や特定の方に対する居室の窓施錠等も、必要性を話し合い、解除するためには？との意識をもち、取り組むようにしている。必ずご家族様への状況も報告を行っている。	身体拘束等適正化委員会があり身体拘束はしないのが原則である。夜間の人感センサー使用は家族の同意書と改善検討も行っている。新型コロナ禍で外部研修は中止となっているが、毎月ミーティング時に拘束のないケアや、介助時の禁止ワードの言い換えについて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないと信じている。介助を行っている中で、常に言葉遣いであったり、自分の介助等が虐待につながっていないか等、意識するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないが、入居されているご利用者様の家庭状況等を見ていく中で、必要性があるときには担当行政等に相談を行いながら、申請等を行っていくようにしている。その際に、学ぶ機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約に説明を行い、わからない部分等がある場合には、その場で回答を行うか、後日回答を行うかでの対応を行っている。今回、利用料改定を行い、説明をしているが、理解等が得られているか不安な面もある。尋ねられた際には、安心して利用いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通常、家族等を実施し、意見交換の場を設けるようにしているが、できていない。面会時に意見等を伺った際には、会社側へ報告を行っていくようにしている。できるだけ反映させたいが、できていないと思う。	年1回家族会を設け、催し物など利用者と共に楽しみ意見交換等もあったが、新型コロナ禍のため今年度は中止している。面会制限の中、担当職員と管理者が毎月、家族へ利用者の詳しい現状を手紙で報告しているものの、事業所全体の取組みや運営推進会議、災害対策などの報告はこれからである。	家族等には電話やメールで連絡を取る機会もあるが、毎月の手紙と共に事業所全体の取組み、運営推進会議、災害訓練報告などを知らせ、家族等の更なる安心に繋がる取組みを検討することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に意見を聞いてもらっている。提案等を行っていき、反映していただけだと思う。	毎月の会議は夜勤者以外の全職員が出席し、代表も時々参加している。職員の提案や要望等を話し合い、利用者の重度化に伴う環境整備のため電動ベッドや介護器具の購入など反映している。管理者は必要に応じ職員と面談し、相談や意見を聞いており、働きやすい職場環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	確信できない部分もあるが、勤務状況等の配慮はしてもらっている。向上心を持って働けるような環境・状況・整備が整うと、よりよくなると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの把握はできていないと思われる。研修等への参加はできていないが、研修会等があれば参加の促しは行ってもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ以前は、ブロック内での研修会等を共同開催しており、交流等が行えていた。その際には、意見交換等を通じて、自分自身の介護に対する視点等を見直していく機会でもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全ての方に対してできているとは言い難いが、入居者様に対しての声かけを行って行く中で、耳を傾けていくようにしている。職員それぞれが聞きだした話などを他の職員にも伝えていき、共有していくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後にも色々と不安に不安に思われる部分もあるだろうということを想定しながら、こまめに話をしていくことを心がけている。聞いたことは、職員間で共有していくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれの状況を見極めていくようにしている。 状況を見極めながら、必要とされている性サービスに対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できていると思います。できることはしていただいたり、入居者様に教えていただくこともあり、お互い、家族のように助け合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で状況等の報告を行っている。協力をしてもらえるところはしてもらっているが、成年後見人がついているところもあり、全部ではない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限をしていることもあり、電話での交流を勧めている。いつでも連絡をとりあえるようにしており、電話での交流はされている入居者様もいらっしゃる。	利用者の生活歴や馴染みの関係は家族等や医療ソーシャルワーカー、施設等から事前に聞き把握している。以前は馴染みの理美容室の利用や家族と外食など自由だったが、新型コロナ禍で面会制限中であるため、電話の回数を増やし関係継続を支援している。家族から顔や表情を見たいと希望があり、オンライン利用を検討中である。	事業所前の広場で、気候に合わせ戸外で面会できるような整備が始まっている。事業所と家族との連携のため、利用者の馴染み継続のため期待できる取組みであり、並行してオンライン面会も前向きに進めることができるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくホールで過ごしていただくようにしている。レクリエーション等を通じて、交流する機会を作ったりしている。また、気の合う人等も見極めながら食席でも会話ができるように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者を中心に行っている。相談があれば対応を行ったりしており、退所後も関係を大切にしていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけし、不安になられないように努めていくとともに、本人様の要望や意向に沿った支援ができるように努めている。また、職員間での状況共有を行うようにしている。もう少し利用者として話をし、深めているべきであると思うこともある。	利用者の思いやペースにできるだけ沿えるよう支援時に必ず声掛けを行い、希望で起床や食事時間を柔軟に対応している。入浴時や普段の会話から得た情報は、申し送りや個人記録に残し職員間で共有している。難聴の場合は補聴器の使用があり、本人が安心できる暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できていると思うが、活かされているかどうかは不明である。情報を基にして、ホームの中で活かせるような工夫をできるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定を実施。介護録等に詳細を残すようにしている。また、軽い運動も取り入れながら、心身状態や身体の動き等を見たりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に入居者の状態把握を細かく話し合い、担当者によるモニタリングも行うが、職員全体での情報共有に努め、反映させるように行っている。	初回は1ヶ月を目標期間に掲げ、次回より長期1年短期6ヶ月の期間で支援目標を見直している。面会時や電話にて、家族の希望を汲みケアプランに反映している。利用者には、支援内容を説明し同意を得ている。入院など状況に応じて、随時見直しを行っている。支援内容を毎日チェックし、モニタリングやアセスメントに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に詳細に残しながら、ケアプランの実践に活かされるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できている。あがってきた要望等は職員間で共有し、実行できるできない等の見極めを行っていきながら、できる方法につなげていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコンビニ等に出向き、商品を選び、購入するという取り組みを行ってきた。地域の行事にも、参加できる時は参加していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医療機関との連携を図り、対応をしている。主治医等の連絡を密に取り合いながら、必要時にはご家族様を交えての面談を行うようにしている。	かかりつけ医療機関を優先し、皮膚科や歯科等も含め、職員が通院介助を行っている。現在は、新型コロナ禍にあり、往診対応となっている。受診内容は家族へ連絡し情報共有している。職員は普段から利用者の体調変化に気がけ早めの受診を行っている。夜間緊急時の対応は、職員は周知しており、安心安全な体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定を行い、日々の変化に気づきを持つように心掛けている。看護師への報告も行い、場合によっては主治医への連携を図ってもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者を中心に入退院時の情報交換を行っている。入院時の状態については、介護職でも応えられる部分もあり、担当のSWなどに伝えてもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、看取り介護を行っておらず、重度化した場合には、ご家族様との状態報告を行い、また、主治医へも相談を持ちかけるなどにしている。その際には、管理者が中心となり対応している。	利用契約書に於いて、事業所での看取りを行わないことを説明し、家族の同意を得ている。利用者の体調変化時に、主治医と家族、管理者も含め話し合いの場を随時設けている。利用者や家族の希望を汲み、できる限り事業所で暮らせるよう、対応できる最大の支援内容を検討し実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作っているが、定期的な訓練等は行っておらず、今後は研修等を行っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練は実施しているが、地震時の訓練は1度、水害に関しては行っていない。地域との細かな連携までは至っておらず、今後、話しを行っていく必要がある。	年2回消防訓練を実施している。防災器具業者の指導の下、消火訓練を実施しており、夜間想定訓練は年度末に予定している。非常時の持ち出し品を準備し、法人内で備蓄を行っている。災害訓練未経験の職員がおり、避難場所は検討中である。地域住民との連携は声掛け予定であるが、自然災害訓練は未定である。	火災訓練への未参加職員、自然災害を想定した訓練への取組みが望まれる。避難場所や災害想定など、訓練内容や避難場所、職員参加など計画及び実施すると共に、地域との連携体制の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないよう、言葉かけなど気をつけるようにしている。しかしながら、全体ができていとは言えず、気づいた時には注意を行うようにしている。	利用者の自尊心を傷つせず、人生の先輩として失礼にならないよう、言葉掛けや接し方に気を付けている。トイレ誘導など羞恥心に配慮した言葉がけを行っている他、脱衣時は同性介助である。個人情報事務所で保管し、個人情報に関する同意書を作成している。職員の守秘義務の誓約書がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人様の思いなどを聞いていくように心がけている。その中で、聞かれたことに対しては、できるだけ思いにつなげていけるように心掛けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間的な流れはあるが、本人様たちの生活ペースを大切にしながら、支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等は、介助を要する人など介助行い、自立されている方はご自分で行われている。その中でも、本人様が気づかない部分もあつたりするため、自尊心を傷つけないよう配慮しながら介入を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や毎月1日の赤飯等、楽しんでいただけよう工夫してもらっている。食事のセッティングは職員で行い、入居者に合わせた食事提供等の行っている。	法人内の就労支援施設による食事を提供している。利用者の嗜好や季節行事に合わせた献立など、要望し献立に反映している。医師の指導の食事制限に対応すると共に、利用者の自立具合や嚥下状況に合わせて盛付けている。おやつに季節感を取り入れたり、御節やおはぎ作りなど食を楽しむ工夫が確認できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量等、なかなか摂っていただけない方に対しては、好まれる飲み物等を提供することで、必要最低限の水分摂取をとっていただけるよう気にかけている。食事量等も医師等から指示があった場合は、それに向けた提供方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアの支援を行っている。口腔内の清潔を保つため、声かけによる促し等を行い、確実に実践していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解し、介助を行っている。自立している方もいらっしゃる、見守る部分もあるが、全ての入居者に対して、排泄誘導の声かけを行っている職員もおり、気をつけるようにしている。	トイレで座位による排泄支援を行っている。職員は排泄チェック表に、排泄量とパッドの種類を記入し統一したケアに取り組んでおり、カンファレンスで、個別に支援内容を検討している。リハビリパンツから布パンツ、理学療法士のアドバイスを支援に取り入れ失禁減少など、利用者が心地よく過ごせる介助を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ内服に頼らないでいよう、牛乳の提供や、ヨーグルトの提供を行うようにしている。その方々に合った対応を策で支援を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上、職員の都合に合わせてしまっているが、タイミングや拒否等があった場合には、本人様の意思を尊重するようにしている。	事業所の浴室は、個浴とリフト浴がある。週2回を目安に入浴を支援しており、拒否時は無理強いせず、時間や声掛けを変えている。利用者の入浴習慣を優先し、同性介助の対応もある。季節の湯を実施したり好みの湯温、ゆっくり浴槽に浸かるなど、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など、静養時間を設けている。夜間体もゆっくり休まれており、眠前薬服用の方もいらっしゃるが、主治医と相談しながら調整をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの内服薬については理解するよう努めている。追加処方等があれば、薬剤名を把握し、副作用等読み、気をつけるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができることを把握し、一緒に助け合いながら生活を送っているということを感じていただきながら、生活に張りを持たせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は、ご家族様と一緒に外出をされたりしていた。食事に出かけたり等もしており、本人の希望を汲み取りながら支援してきた。今年は車外にはできないが、ドライブに出かけている。	天候や体調を見ながら、敷地内を散歩している。また、気分転換にドライブを実施し、四季折々の花々を愛でたり、車中にておやつを食べるなどの外出を行っている。現在、利用者や家族がゆっくり過ごせる庭園を計画し整備中である。新型コロナウイルスにおいても外出を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理をしてもらっていない。入所時、どうしても持っておかないと不安とおっしゃられる方に対しては、ご家族様の了解を得た中で、少額の自己管理を行っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話交流や手紙のやりとりの制限は設けておらず、自由に交流ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じての行事の取り組みを行っている。なかなか変化をつけるのは難しいが、外庭に咲いている草花を生けたりしている。	建物内部は木調をふんだんに使用した造りで、木の温もりが自宅のようであり家庭を思わせる。ゆったりとしたリビングにはソファや畳の間もあり、利用者一人ひとりが好きなように寛ぐことができる環境である。外庭の散歩中に花を摘みテーブルに飾るなど家庭的な暮らしであり、職員による換気や掃除も行き届き、清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるようにしている。時々、玄関先の椅子に座り、外を眺めておられることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みのあるものを持ってきていただき、安心して生活を送っていただけるようにしている。室内環境も、本人に合わせて位置を変えたりすることもある。	居室は、電動ベッドと整理棚の設置があり、自宅から仏壇、テーブルや椅子、写真やぬいぐるみ、お気に入りの毛布などの持ち込みがある。午前中に職員がベッドを移動し、隅々まで掃除を行い、清潔を保持している。夜間のポータブルトイレは日中は別の場所に移動し、ゆっくり寛げる居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に気を配りながら、場所がわかりやすいように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202882		
法人名	有限会社 グリーンケア・はりお		
事業所名	グループホームかえで荘 2号館		
所在地	長崎県佐世保市針尾東町977-5		
自己評価作成日	令和2年12月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で復唱し、意識づけを行うようにしている。また、施設内にも数箇所、理念の掲示を行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤時等に挨拶を交わす程度である。以前は、地域のサロンに出かけ、地域の方と交流する機会を設けていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と交流を行いながら、施設におられる方のことを理解していただけるよう、話を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にも参加していただき、意見交換を行っている。その中で、地域の方からも協力できることはしていただけるような言葉かけをもらうこともあった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者中心であるが、町内の方と連携を取り合いながら、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束は禁止である。玄関施錠は、大事故につながることもあるため、仕方なく行っている。必要な方には人感センサーを用いているが、目的を明確化し、行動を制限しないよう、安全な介護を行うために使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員自身の行動や言葉かけを振り返りながら、虐待に繋がっていないか、それぞれが注意し、相談し合える関係性を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用することもあり、管理者が中心となり適切な支援を入居者様が受けられるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、説明をきちんと行っている。不明時には、尋ねてもらうようにし、その場での回答もしくは後日回答を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの意見・要望等は受け止め、運営に反映できるよう全体で取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに運営としての意見を聞く機会があり、職員からも意見や要望等を行い、反映できる等に努めていただいている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの取り方などへの配慮もあり、働きやすい環境になりつつあると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量を把握するまでには至っていない。研修機会等も減っており、先輩職員が後輩職員に技術等を伝えていくよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士での研修会を実施し、職員同士の交流を深めあっていたが、今年度はできていない。管理者同士で意見交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を理解していくと共に、現状の支援が必要な部分を把握するようにしている。その後、安心して生活を送っていただけるよう関係性を深めあうよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設説明を行い、不明点等があれば気軽に尋ねていただけるような関係づくりに努めている。その場で回答することもあるが、後日、回答を行うこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや担当SW、ご家族様からの情報をいただき、いま、必要な支援は何かを判断するようにしている。それを基に、様々な生活支援につなげられるよう情報共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、昔の話を伺ったりしながら、一緒に生活をしている者として関わり合いを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様宛の手紙を送り、状況報告を行いながら、一緒に支援させていただいていることを理解してもらうようにしている。行事への参加も呼びかけていたが、現在はできていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話交流等が自由にできる環境を作っている。面会も制限がなければ自由に行っている。現在は、面会制限をしており、できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないよう、入居者同士交流ができる雰囲気づくりに努めている。レクリエーション等でお互いに楽しめる場を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が中心となるが、退所後も、相談等があれば対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のペースに合わせながら、希望・要望に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より情報を得たり、日常会話の中から情夫を読み取り、支援につなげられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で申し送りを行い、現状把握に努めるよう行っている。また、毎日のバイタル測定を行い、体調管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、ケアプラン作成を行っているが、介護職員として関わっていくなかでの視点等も大事にし、ケアプランに反映できるように行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を記入し、改善していくべき点等があれば話し合いをするようにしている。小さな気づきも残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合わせた対応に取り組めるよう支援を行っている。難しい場合もあるが、職員間での情報共有に努め、柔軟な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設を最大限に利用していただき、支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携をはりながら、細かな情報でも報告を行うようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面等の気づきの部分は看護師へ報告を行い、適切な治療等につなげられるように支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も担当SWと情報共有を行い、こまめに状態把握をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を行っておらず、重度化した場合や、施設として介護が困難となった場合には、ご家族様と連絡を密に取り合い、主治医の意見を踏まえながら、適切な支援の提供を行っていただける施設等を探すことにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行うように実施。急変時、看護師勤務の場合には、それぞれに指示を出しながら、連携を図るようにしている。定期的な訓練等行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防訓練に関しては年2回、実施。地震訓練は1回行ったが、水害訓練は行っていない。自主検査を行い、未然に防げるように気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう、支援に努めているが、慣れの中から、親しみを込めた呼び方になったりすることもあるため、気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを受け止めながら対応できるよう努めている。また、ケアに当たる際には、本人様に伺いながら、合意の上、介護を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に合わせた支援を行うよう心がけている。しかし、職員優先になることもあるため、時と場合を見極めながら支援を行っていくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が着たい洋服を着ていただくようにしている。髪など、身だしなみにも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態を見極めながら、食事形態等の工夫を行っている。厨房内での手伝いはないが、テーブル拭きやトレイ拭き等の、食に関わる手伝いをさせていただきようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事ペースを見極めながら、提供時間をずらしたりしている。水分摂取量が少ない場合には、好まれる飲み物等を提供し、飲水していただくことで、必要最低限の水分摂取に繋がるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導を行い、介助が必要な方には、それぞれ介助を行い、清潔に保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で確認をとりながら、誘導が必要な方には、適時、誘導を行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談しながら、下剤の調整をされているが、下剤を相談する前に、ヨーグルトや牛乳等、薬剤に頼らないでいいような対応を行い、最終手段として下剤使用を検討するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員都合で曜日は決まっているが、ゆっくり入っていただけるようには心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後、静養時間を設けている。 夜間もそれぞれが入居者様の睡眠状況を把握し、適切な対応を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、配薬時には本人確認を必ず行い、飲み込みまで確認を行っている。全ての薬把握まではできていないが、追加処方薬等があった場合には副作用等確認し、気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての方に対してできているかは自信はない。できることは一緒に生活を共にしているという環境の中で、安心した生活を送っていただけるようにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前はご家族様と外出をされたりしていた。また、地域のコンビニに一緒に出かけたりしていた。現状は、気分転換に車外に出ない状況ではあるが、ドライブに出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、事務所管理にはなっているが、持っていないと安心しないという方には、ご家族様の了解のもと、持っていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたり、ご家族様からの電話を取り次いだりし、交流を切らさないようにしている。手紙のやりともを自由にしているが、出される方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除等行い、清潔に使っていただけるよう支援を行っている。また、外庭より季節の草花を採取し、飾ったりし、季節感を味わってもらうようにもしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で交流を深められたり、玄関横の椅子に座り、外を眺められたりと、自由にすごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、使い慣れたものを置き、不安になられないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等、入口に表札を設置し、それぞれの共有物に関しても、わかりやすい表記を行うようにしている。		